

令和5年度第3回社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 令和5年12月10日(日) 10:00～12:00
- 2 開催場所 日本民家園 園内、旧原家住宅
- 3 出席者 委員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、長谷川委員、柴田委員、松本委員、今委員、原田委員
事務局 澁谷園長、東担当係長、葉山担当係長、真保職員
- 4 議 題
 - (1) 園内視察(井岡家・佐々木家井戸・佐々木家～山下家、野原家・作田家・北村家・小泉家便所・伊藤家・蚕影山祠堂、船頭小屋を視察)
 - (2) 川崎市立日本民家園運営基本方針について
- 5 傍聴者 0名
- 6 会議内容
 - (1) 園長挨拶
 - (2) 会議成立の確認、資料確認
 - (3) 園内視察
 - (4) 報告事項 (原家2階にて事務局より説明)
 - ・秋の入園者数について
 - ・緑化フェア、市制100周年について
- 7 園内視察内容
 - 鈴木家
菅野委員：鈴木家の物置の扉がベニヤ板に変わっているのはなぜか。
園長：扉が壊れてしまったので新しいものを作成中である。このため仮にベニヤ板の扉をつけている。
 - 井岡家
葉山担当係長：昨年度視察の際、耐震工事設計を進めていると説明したが、今年度工事請負入札が不調になってしまった。2回目の入札がうまくいけば来年1月中旬頃決定するが、また不調なら来年度に構成し直すことになる。

●水車小屋前

園 長：カシノナガキクイムシという虫の害により木が水分を吸い上げられなくなり立ち枯れてしまう「ナラ枯れ」が園内でも広がっているが、伐採等の対応がなかなか追い付かない。こうした樹木管理は昨年度まで川崎市が委託に出していたが、今年度から指定管理業務に移し生田緑地全体と一緒に管理してもらうことになった。

高橋部会長：伐採する木の優先順位は、職員が巡回中などに目視で決めているのか。

園 長：指定管理者の担当者と市の職員と一緒に園内を回り、危険な木をピックアップした。しかしすぐに伐れるわけではないので、日常的に職員・警備員が園内巡回時に上を見て歩き、落枝などが危なそうなところはカラーコーンで囲うなどの対策をしている。

高橋部会長：指定管理業務になって、楽になった面はあるか。

園 長：市の場合は一般入札が必要で時間がかかるが、指定管理業務では不要なので小回りが利きやすい。一方指定管理者は生田緑地全体を管理しているため、その中で園内を優先してもらうのが大変である。

菅野委員：ナラ枯れ木のチェックは、まわりの樹木類の葉がある時期の方がわかりやすくてよい。逆に落葉後でもナラ枯れの木だけ枯葉が残っていてわかることもある。

園 長：幹にキノコやカビが生えている木は中が腐っているので、チェックして地図に落としていく。

●佐々木家井戸

園 長：井戸の屋根が傷んでいるので、今年度屋根葺替工事設計を行い、来年度工事実施予定である。

●佐々木家～山下家

葉山担当係長：佐々木家から山下家・野原家までの園路を舗装するため、下の路盤の整備もしつつ工事を進めている。埋設水道管の漏水等劣化も判明し、追加で水道工事も行っている。

大野副部会長：野原家の土台高さの状態からすると、排水はうまくいくのだろうか。警備本部側に排水されるよう、もっと高くすべきではないのか。

葉山担当係長：勾配計算を行った上、様々な条件・事情を考え合わせてぎりぎり高くしたのが今の状態である。屋根から落ちる水は周りに巡らせた U 字溝で受けて野原家側には流れ込まないようにしている。それ以外の水も警備本部側に流れるようになっている。

大野副部会長：文化財保全と見学の快適性はバランスが必要である。今回テストケースと

してこうした方法を選択したのであれば、その情報を蓄積してほしい。

園 長：来年度は全国都市緑化フェアが生田緑地で開催されるため、当初予定よりも工事を早めている。

●山下家

菅野委員：屋根上部の飾り縄はずれてしまっているが、直すのは難しそうだ。

葉山担当係長：足場をきちんとかけないと業者も対応が難しい。飾りなので、はずれていても構造上は問題がないと思われる。

大野副部長：台風等により問題が起きたら修理検討することによいのではないか。

松本委員：各家の解説板は、家を見ながら読める位置にあるのが理想だと思う。そうでない案内板は、すぐには難しいだろうが、位置変更を検討してはどうか。

園 長：読みやすいことも大事な一方、解説板抜きで写真を撮りたい方への配慮も必要であり、解説板の位置は悩ましい。

●野原家

葉山担当係長：背面の屋根はかなり破損が激しく茅がとろけるほどの傷み具合である。葺替工事設計を今年度行っているが、実施は再来年度になる。正面・側面と一緒に葺替えるかは検討中である。

大野副部長：雨漏りがするようなら、工事までの経過措置として栈木を設置し杉皮を張るなどしてはどうか。

●作田家

葉山担当係長：現在の状態は、揚屋を行った後また下ろし、今度は屋根葺替のため主屋、土間ともに茅を撤去したところである。小屋組みに腐朽が見つかったので、年度内に主屋の修理と葺替、土間の修理を終えたい。

柴田委員：礎石の下にコンクリートが入っているように見えるが、床は山田家のように高くなるのか。

葉山担当係長：犬走りに20センチほどの厚みで三和土を施工するので、床が高くなるわけではない。

大野副部長：耐震検討委員会の委員として説明したい。鉄骨が入ったことで見苦しくなってしまったが、倒壊を防ぐという安全性を最優先した。耐震補強の方法はいろいろあるが、作田家は開口部が多いので壁を作るのではなく、最低限の鉄骨をなるべく元の部材にキズをつけずに設置する方法とした。検討の過程も含め報告書に記録し、後世に再検討できるようにしておきたい。

園 長：耐震工事の方法は構造設計の建築専門家に集まっていただいてそれぞれの家ごとにベストな方法を検討している。設計にも時間がかかってしまうが、

博物館としてはそうした形で進めなければならない。

松本委員：柱には比較的新しいものと、かなり傷みが見られる古いものがあるが、古いものは耐震工事とあわせて交換するのか。

葉山担当係長：柱の交換までは行わない。移築時に、すでに改修により存在しなくなっていた柱などは新しい木材を使ったので、元からの部材と古さに差がある。しかし元からの部材をなるべく残すという方針なので、交換するほどの傷みはないと判断した。ただ民家園に来てから傷んでしまった柱などは修繕を行う。

野尻委員：鉄骨を木でカバーするのはどこか。

葉山担当係長：H鋼のへこんでいる一边を木で蓋をして、四角い断面に見えるようにする。

野尻委員：完全に木に見えるのもよくないのではないか。

葉山担当係長：そのとおりだが鉄骨が目立ちすぎてもよくないので、塩梅が難しい。

●北村家

葉山担当係長：今年度屋根の葺替工事設計を行っている。へヤの外側の軒は深すぎて、支えが必要である。葺替時も支えを設置する。

大野副部長：支えは後から付け加えたことがわかるような材料を使ってほしい。

野尻委員：北村家は耐震工事をいっしょにしないのか。

葉山担当係長：北村家の園の中での耐震工事優先順位は低いため、先に屋根葺替のみ行う。

大野副部長：現在、力垂木がかなり多く使われているが、もっと少なくできるのではないか（他の箇所における本来の力垂木配置と同じ程度）。

葉山担当係長：調査しながら検討したいと思う。移築前、このあたりは縁になっていたと思われる。

●伊藤家

葉山担当係長：屋根葺替に当たり、棟まわりは神奈川の家に近い形状にした。

野尻委員：茅を葺いたのは神奈川県業者か。

葉山担当係長：業者は茨城県から来ている。写真等を見ながら作業してもらった。現在神奈川県に頼める業者はいない。また妻壁の窓にハチや動物の進入を防ぐため黒いメッシュシートを貼った。中が暗い古民家はハチが巣を作りやすいと聞いている。

菅野委員：解説板のイラストと屋根の形が違ってしまわないか。

葉山担当係長：確かにそうだが、合わせるのは難しい。

●蚕影山祠堂

高橋部長：中にある仏像は盗まれたりしないのか。

園長：レプリカを置いており、本物は収蔵庫にある。以前は堂の中は空だったが、

寂しいのでレプリカを作成した。今のところ盗難等はない。蚕影山祠堂では毎年3月に縁日の再現展示を行っている。

葉山担当係長：伊藤家と蚕影山祠堂は同じ発注工事だが、祠堂の方が先に完成したので、一足早く公開した。伊藤家は1月末完成の予定である。

園長：このあたりもナラ枯れの木が多いが伐採が追い付いていない。今年は台風が少なく助かったが、一番の懸案事項である。

葉山担当係長：蚕影山祠堂の屋根茅が傷んだのも木が覆いかぶさり通風がよくなかったためではないかと思われる。

8 川崎市立日本民家園運営基本方針について

菅野委員：資料の22ページ以降、条文の項の部分はインデントなどの書式をととのえたほうがよい

園長：今後のスケジュールとして、「生田緑地ビジョン」、「新・かわさき川崎観光振興プラン」等、関連施策の所管課に確認をとり、1月末までにインデント等の調整や民家園の全体図、グラフなどを入れて、レイアウトを完成させる。2月には教育長、教育次長に確認し、3月12日に本庁で開かれる教育委員会で決定する。その後、今年度末までにPDFにしたものを民家園の公式サイトで公開し、誰でも閲覧できるようにする。

松本委員：アンケート集計はここにのっているものだけで、これ以上の分析はしていないのか。

園長：グラフを掲載するが、それ以上の分析はしていない。

松本委員：アンケートの集計をみると回答件数が多く、もう少し細かな分析ができると思う。1回だけの来園者が何を目的に来たのか、複数回の来園者はどうなのか、クラスター分析を行うとよい。階層別に来園目的などの傾向がわかるため、今後の民家園の企画に活かすことができる。

園長：クラスター分析については今後の課題とする。

松本委員：エクセルなどで行えるため、ぜひ検討していただきたい。

野尻委員：園内のガイドというのは来園していきなり依頼できるのか。

園長：ボランティアによるガイドで、団体ガイドは事前申込制。日本語、英語ガイドがある。毎日の定時園内ガイドもあり、こちらは日本語のみ。同じくボランティアが平日は13時の1回、休日は11時と13時の2回行っている。

菅野委員：現在パブリックコメントにかかっている運営基本方針と同時策定の文化財課所管「川崎市文化財保存活用地域計画」では、民家園について古民家を催事会場として扱うのではなく伝統文化を伝える場所にしていくこと、またインターネットでの発信などが課題としてあがっていたが、運営基本方

針にも同じ内容を盛り込んでいるのか。

園 長：文化財保護活用地域計画は川崎市における全体的な計画であり、運営基本方針もこれにリンクしている。まったく同じ文言ではないが、同じ内容を盛り込んでいる。

菅野委員：周辺に残る民俗芸能等と一体化して魅力の発信をするとあり、例えば初山の行事などがあがっていたが、そういったものも方針に入れてあるのか。

園 長：地域との連携とは書いてあるが、民俗芸能とまでは書いていない。地域計画も基本方針と同じく3月12日に教育委員会にかけられる。それにあわせて民家園でもスケジュールを決めている。

高橋部会長：園長が地域計画を審議する委員会の委員も務めているというなら、問題はないと思われる。

<議事終了>

9. 報告事項 緑化フェア・市政100周年について

野尻委員：緑化フェア期間中、月曜開園する可能性があるとのことだが、人員が不足している中大丈夫なのか。

園 長：指定管理料計算の中で年間開園日数は決まっているため、臨時開園した分は振替で休園日の設定を検討することになると思われる。夏の猛暑時期や大掛かりな工事を行う期間に設定できるとよいと思う。

菅野委員：神奈川県立生命の星・地球博物館は夏の間は休みなく開館し、冬は月・火曜日を休みにしている。

高橋部会長：工事のための休園だと職員は休めないのではないかと。臨時職員などをつけてもらえるとよいが。

園 長：耐震補強工事や消防設備点検などがもともと休園日に入るため、どうしても開園できない日もある。それについては本庁と調整を行う。

柴田委員：月曜日に開園するなどの変更がある場合、早めに告知していただけると炉端の会の活動をスムーズに進められる。

今委員：緑化フェアについて市内の学校では、全小中学校で児童生徒に種を配り、花を育てて緑化フェアの会場に持っていくという事業が行われている。

園 長：民家園としてはまず基本業務をしっかり行いつつ、緑化フェア等にはできる協力をしていくことになると思う。

高橋部会長：民家園を市内全域の方に知っていただくチャンスではあるため、うまく活かしてほしい。

8 今後の予定

- ・令和6年3月 第4回専門部会 令和5年度事業評価について

以上について事務局より連絡。

<12：00 視察終了、閉会>